

緩山河

第37号

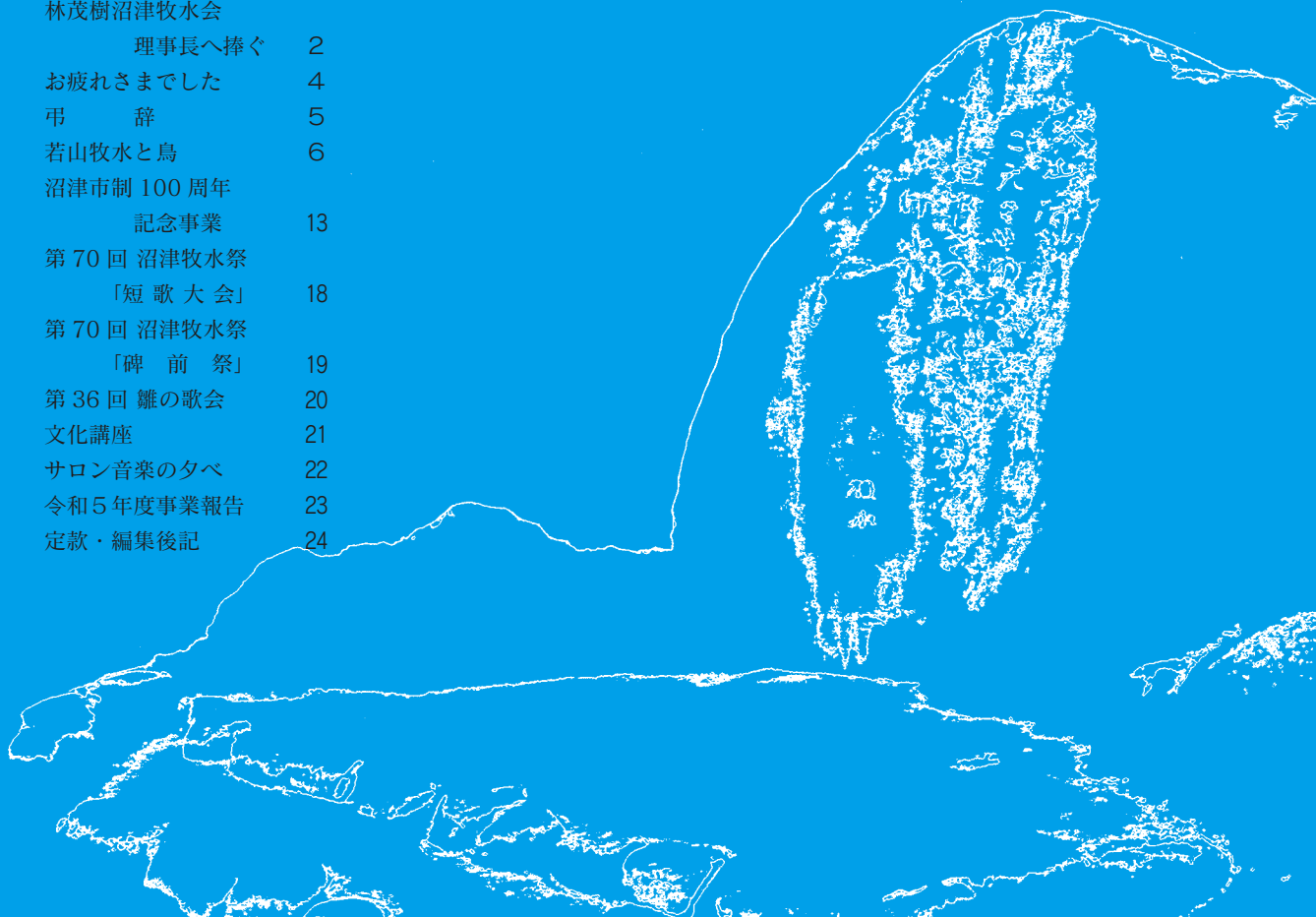
令和6年5月25日

発行

公益社団法人沼津牧水会

目次

林茂樹沼津牧水会 理事長へ捧ぐ	2
お疲れさまでした	4
弔辞	5
若山牧水と鳥	6
沼津市制100周年 記念事業	13
第70回沼津牧水祭 「短歌大会」	18
第70回沼津牧水祭 「碑前祭」	19
第36回雛の歌会	20
文化講座	21
サロン音楽の夕べ	22
令和5年度事業報告	23
定款・編集後記	24



林茂樹沼津牧水会理事長へ捧ぐ

沼津市若山牧水記念館館長
榎本 篁子



林茂樹理事長は接する人すべてを魅了する方、あらゆる事に真摯に向き合いしかも常に座の中心に居てくださる方でした。ご活躍の幅はボーダーレスでしたので、公益社団法人沼津牧水会より館長を委嘱されている私はこのたびは「理事長」とお声掛けさせていただきました。

ご存知のように祖父母若山牧水・喜志子の菩提寺が千本山乗運寺でありましたので、思えば私も幼い頃から法要の折、乗運寺に伺い、先代御住職にも度々お目に掛かっておりました。林茂樹理事長と私どもの御縁は副住職でいらした昭和四十年代からはじまります。

林茂樹沼津牧水会理事長、聞こえますか。ご覧になれますか。
林理事長のお顔を、そして厳しくも温かいお声をせめてもう一度、と今大勢の皆さんがここに集まっておられます。

千本山乗運寺第二十八世

大蓮社明譽上人智清慈教茂樹和尚

表葬儀が去る三月二十六日午後一時より乗運寺本堂にて止むことなき雨と雷鳴轟くなか厳かに執り行われました。

林茂樹理事長は接する人すべてを魅了する方、あらゆる事に真摯に向き合いしかも常に座の中心に居てくださる方でした。ご活躍の幅はボーダーレスでしたので、公益社団法人沼津牧水会より館長を委嘱されている私はこのたびは「理事長」とお声掛けさせていただきました。

ご存知のように祖父母若山牧水・喜志子の菩提寺が千本山乗運寺でありましたので、思えば私も幼い頃から法要の折、乗運寺に伺い、先代御住職にも度々お目に掛かっておりました。林茂樹理事長と私どもの御縁は副住職でいらした昭和四十年代からはじまります。

平成十年（一九九八）に当時沼津市若山牧水記念館の館長だった父若山旅人が他界、葬儀の後の枕経をあげていただいた時、林理事長は父の遺影の前で姿勢を正され、私に後の館長を是非とも引き受けるようにと仰いました。

昭和五十六年（一九八一）に沼津牧水記念館建設発起人会が結成されて以来、献身的な熱意と善意と交渉力で牧水会、有志の皆さまの先頭にたち、昭和六十二年（一九八七）の

開館まで導いてくださったのは林理事長であったからこそ。その頃父の付き添いでよく沼津を訪れるたびに設立の御苦労や経緯をお聞きしていた身にとって正に青天の霹靂でした。林理事長より「返事をもうらうまでは帰れない」とのお申し出に屈するより他なく、お引き受けして今年で二十六年になります。この間の林理事長はじめ支えてくださった沼津牧水会、関係者の皆さまのご配慮には感謝のほかありません。

大正九年（一九二〇）私の父旅人が小学校へ入学する頃のこと、全国を旅した牧水が温暖で自然環境に恵まれた沼津の千本松原と富士山に強く心を惹かれて、東京を離れ一家を挙げて沼津への移住を決意します。

沼津から千本浜へ出ようとする浜道の右手に千本山乗運寺といふ寺がある。当代よりは廿六世以前、山城国延暦寺乗運公の実弟、増誉上人といふ人がこの沼津の地に来り、以前鬱蒼として茂つてゐたと伝へらるゝ、松原が相模の北条と甲斐の武田との戦ひの戦略から一本残らず伐り払はれ、見る影もない荊棘の曠原となつてゐたのを嘆き自ら植樹に着手した。然し、今もさうだが此処の浜は砂地でなく荒い

石の原である。植ゑてもなかなか根づかない。ために上人は一本を植うることに阿弥陀経を誦し、植ゑ且つ読経しながら辛うじて先づ一本を植ゑつけた。而して時の政府に建言し、枝一本腕一本といふきびしい法度を設けて苗木を愛護し、数代の苦心によつて現在の壮大な松原が出来上つたものさうだ。

天文六年(一五三七)、増誉上人によつて開山された千本山乗運寺と千本松原について牧水は随筆『沼津千本松原』にこう書いています。

千本松原を日本一の松原と讃え、朝夕を慰められていた牧水でしたが、大正十五年(一九二六)に聞くに堪えぬ県の松伐採計画を知ります。

幾らの銭のために増誉上人以来幾百歳の歳月の結晶ともいふべきこの老樹たちを犠牲にしようといふのであらうか。(略) まつたく此処が伐られたら日本にはもう斯の松原は見られないのである。豈其処の蔭に住む一人人の嘆きのみならむやである。(略)而して眼前の些事に囚はれず徐に百年の計を建て、欲しい

とおもむろに揺れる老松の梢を仰ぎつつ語っています。

牧水が新聞に『沼津千本松原』の論文を発表し、乗運寺先々代林彦明御住職(榊樹上人)と共に保護を訴える運動をはじめると御住職は黒染めの袖をまくしあげ、机を叩いて反対説を怒号し、日ごろ静かな牧水も厳然と壇上にて熱弁をふるつたとのことで結果、松原は守られ増誉上人の心を次に繋いだのです。これが自然保護運動の先駆けともいわれております。この反対運動が縁で二人の交流が続きます。この葬儀では導師を務めてくださったのも榊樹上人でした。牧水は今その千本山乗運寺に静かに眠っています。

平成二十六年(二〇一四)「築山」建設計画が持ち上がり、三度松原の一部伐採の折には林理事長は先代方に倣い先頭に立つて千本松原を守る数々の活動をされました。

林茂樹理事長との人知を超えたとも言える不思議なエピソードが残っています。

時は明治四十年(一九〇七)、六月に牧水が幾山河の旅に出て岡山県哲西町を通り九州へ帰省し、和歌山を経て東京へ戻ったのが八月末、そして九月に牛込原町の浄土宗寺院専念寺の一角に越しています。この専念寺は実は林茂樹理事長の母方のご実家でした。

明治三十七年(一九〇四)に早稲田に入學してからの牧水は東京で度々住まいを変えて

おり、僅か二年ほどで居を移している中で偶然。しかも引越した日は九月十七日、奇しくも後の牧水の命日です。

この話を伺った時に「縁」とはこういうものかと得も言われぬ感におそわれたのでした。昨春秋、沼津市制百周年を記念して牧水記念館で催された企画展「若山牧水 鳥の歌―いきとしいけるものうた」、伊藤一彦先生をお招きしての「牧水 鳥の歌」講演会、そして恒例の「沼津牧水祭前祭・芝酒盛」の一連の行事にて沢山の参加者の皆さま、林理事長とよい時間を一緒に過ごしました。牧水の終焉の地沼津で牧水を顕彰いただきましたこと、改めて感謝と御礼を申し上げます。エネルギーでバイタリティー溢れる林理事長のご不在は想像し難いながら、そちらでは牧水と一献交えることもおありだろうか、などと過ります。

林茂樹理事長、あのことこのことまだまだお名残は尽きません。長い間誠に有難うございました。いよいよお別れです。どうぞお気を付けておすすみ下さい。心からさようならを申し上げます。

聞きあつたのしくもあるか松風の今は
夢ともうつつとも聞ゆ 牧水

お疲れさまでした

東京牧水会会長

田原大三



第70回沼津牧水祭碑前祭にて
(令和5年10月15日)

若山牧水の顕彰に真摯な心で取組み、発言し、行動で示された公益社団法人沼津牧水会理事長、全国牧水顕彰会副会長の林茂樹氏が亡くなられた。

牧水顕彰活動の範を示された故人のご功績は計り知れず、その旅立ちには真に悔やまれてなりません。

衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

故人とは、牧水が縁でお会いする機会が生まれ、多くのことを教わった。

初めてお会いしたのは、平成四年十月十八

日。『第三十九回沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛』の会場。沼津牧水祭のご案内を頂き参加した私達に、「牧水生誕地の人達による東京牧水会の発会おめでとございます」との祝辞を頂いた。

「日向牧水会、延岡牧水会とも情報交換を密にしてお互い牧水顕彰に努めましょう」とのお話しは、心強くありがたかった。

さつそく、平成四年十一月小会の牧水祭に、金子安夫理事ほか数名のご参加を頂き交流が始まった。その後も互いの牧水祭や牧水行事など、交流は三十数年に及んでいる。

沼津牧水会企画の牧水勉強バスの旅。お誘いを受け同行した暮坂・塩尻・沢渡への旅も楽しかった。牧水縁の湯宿で地元牧水関係者が持込んだ酒に会話も弾んだ。

そして、『若山牧水顕彰全国大会』と『日本ほろよい学会』。東郷・五所川原・沼津・秋田・哲西・延岡・東郷・裾野・日向・沼津大会。どの大会においても、故人は頼もしく輝いていた。

「やア、やア、やア。来てくれてありがとう

よっ！」と、変らぬ大きな声。沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛にお邪魔した時、いつも会場奥の方から気を配られ、入口近くまで歩み寄って迎え頂くのが常だった。交わした大きな手の温もりは今もそのまま。

どうぞ、残された^{ひしほ}葉の成長をお見守り下さりますようお願いを申し上げます。

ありがとうございました。



第25回東京牧水会懇親会（平成27年8月23日 百草園にて）

弔 辞

「おつきむちゃん おはよー」玄関先で元気な声がした。

「おはよう しげきちゃん」と呼応し、二人揃って手を繋ぎ、ルンビニ幼稚園の楽しい行き帰り。

今、あなたの遺影を前にして、その当時の情景が、ありありと思い出されています。

あれから、八十数年、今日に至るまで、長く、深く、心の深淵から許しあえる唯一無二の大親友。それが、あなた茂樹君でした。

幼稚園から高校卒業まで一緒でしたが、私は医療の道へ、あなたは宗教哲学の道へと、大きく進路は別れましたが、その間においても連絡を取り合い、友情を深めてまいりました。

その後、共に生まれ故郷 沼津の地に戻ってきてから、その親交はますます深まったと思うのは、私だけでしょうか。いや、あなたもきっとそう感じていることと思います。八十数年あまり、友人として過ごしてきたのに、今こういう形でお別れしなくてはならない事を大変切なく思います。

あなたは、常に先頭をつっぱしり、千本山乗運寺住職、静岡県教育委員長を始め、数々

の多方面にわたる各種団体の先頭に立ち、沼津の文化・教育に多大な貢献をしてくれました。これらの実績は誰でも熟知し高く評価しているところですよ。

特に私の印象深いのは、沼津牧水会の活動です。理事長として会をここまで立派に大きくしました。

私生活では、若い頃から一緒にお酒を飲みましたね。よく町へ繰り出して夜遅くまで飲みましたね。沼津の酒の半分は飲んだと豪語するほどでした。

ある時、あなたの寺で日をまたいで飲んでるとき、先住が見えて

「浅井君いつまで飲んでいるのだ、早く帰るなさい。」

と叱られてしまったことが懐かしく思い出します。

あなたは、ある時

「どんなに遅くまで飲んだとしても、明日早朝のお勤めは欠かしたことがない。」

という言葉聞き、あなたの仕事に対する確固たる信念を知り、友達ながら畏敬の念を感じたものです。

大学を卒業後暫くして、あなたは体を壊し入院。その後、快気祝いとして、北海道一周三週間の旅をしました。機関車、船、バスを乗

り継いでの旅でした。稚内から漁船で片道三時間かけて利尻島にいき、利尻富士へも登頂しました。その帰り、札幌駅で飲食をとりながら様々な話をし、楽しいひと時を過ごしましたことは、きつと覚えていることと思います。今は良い思い出です。

去る二月五日、宏樹さんから午後二時半ごろ電話がありました。すぐに君の体調に何かあったに違いないと急いで駆けつけました。ベッドに横たわる君にかけより、手を握って「茂樹ちゃん頑張れ！茂樹ちゃん頑張れ！」と声をかけましたが、君は旅立ってしまいましたね。とても寂しく、悲しいです。八十五年間お疲れ様。安らかにお休みください。

令和六年三月廿六日

浅井 治



若山牧水と鳥 伊藤一彦



『海の声』

けからでもよくわかります。その数多い歌から幾つかを、歌集の順に私は見ていると思います。冒頭はなんと書いてもこの歌です。

白鳥しらとりは哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ 『海の声』

牧水短歌のなかで、というよりすべての短歌作品のなかで、最も愛誦されている作品です。二句と四句で軽く切つて読む、五七調のゆったりした調がいいですね。上二句のア音の多さが明るくいい響きです。イメージとしては一面の空と海の青のなかで白い鳥が自らの白をくつきりとさせている場面がいいでしょう。結句の「染まず」がポイントです。

『牧水鳥』には「しらとり」の項に「鳥白し」「白き羽根」などもふくめて一九首の歌がでてきます。『海の声』から引きます。

玉たまひかる純白ましろの小鳥たえだえに胸むねに羽はつ寂さびしき真昼

海の声そらにまよへり春の日のその声のなかに白鳥の浮く
幾千の白羽みだれぬあき風にみどりの海へ日の大ぞらへ

それぞれの鳥たちの姿ですが、具体的に鳥の名前を出していないのが特色です。「白鳥は哀しからずや」の鳥もカモメだろうか、ハクチョウだろうかと、さぐられますが、ただ「白鳥」の方が読者が自由に想像できていいですね。この歌はそもそも、どこの海なのか、季節はいつなのか、どんな年齢や境遇の人が詠んだのか、わかりません。そして、それが魅力なのです。いずれにしても、周りに染まらないで清々しく自分の色を貫く生き方への憧れがくつきり描かれていて魅力ある一首です。『海の声』からもう一首引きます。

ああ接吻くちづけ海そのままに日は行かず鳥翔まひながら死しせ果てよいま

具体的に名前を示さずただ「鳥」と詠んだ作品が多数あります。『牧水鳥』に十数ページにわたって紹介されています。この歌は千葉県の根本海岸に恋人と行き、二人が初めて心身ともに結ばれたときの歌です。大胆な初句ですね。日ごろ大好きな鳥さえどこか遠く

若山牧水が晩年を過ごした沼津の地にある「沼津牧水会」は精力的に牧水顕彰活動を行っています。その活動の一環として『牧水酒の歌』『牧水富士山』『牧水揮毫旅行記』などのアンソロジーを出版してきましたが、このほどあらたに『牧水鳥』を刊行しました。牧水が鳥を詠んだ短歌八四九首、鳥の登場する随筆十一篇、紀行文八篇ほかを収めたユニークな本で、短歌は鳥のカラー写真とともに五十音順に掲載されています。

牧水が鳥を愛したことは、鳥の歌の多さだ

へ行ってしまうと叫んでいるのが特色であり、そこがこの歌のすごさですね。

次は第二歌集『独り歌へる』からです。

糸のごとくそらを流るる杜鵑あり声にむかひて涙とどまらず

「杜鵑」すなわちほととぎすは牧水が最も愛した鳥の一つです。坪谷の生家で幼少の頃か



『路上』

『別離』

『独り歌へる』

らその独特の声を聞いていました。あるエッセイのなかで、ほととぎすの声を聞いていると現代離れのした思いとなり、あたりの風物も原始時代の面影をおびてくるように思えると書いています。この歌は、大学を卒業した年の夏の軽井沢での作ですが、「声にむかひて涙とどまらず」からはそんな感動が伝わってきます。背景に就職問題や恋愛問題がありました。

あをばといふ山の鳥啼くはじめ無く終りを知らぬさびしき音なり

この「あをば」は日本に青葉の五月のころに渡ってくるアオバズクを略していったものでしょう。「牧水鳥」では「あおばと(緑鳩)」の項目に入っていますが、そうでないでしょう。大木で夜に「ほうほう」と啼いているのを耳にします。牧水はそのさびしい声を「はじめ無く終りを知らぬ」と絶妙に表現しています。自らの恋の悩みがそう思っていたのかもしれません。東京の百草山での作で、この場所はかつて恋人の園田小枝子と共に過ごしたことのある思い出のところです。

床に馴れ羽おとろへし白鳥のかなしむごとくけふも添寝す

第三歌集『別離』の歌です。この歌では「白鳥」が比喻として使われています。「白鳥のかなしむごとく」の「かなし」は「悲し」と「愛し」の両方の意味でしょうね。その「白鳥」は「床に馴れ羽おとろへ」というのですから、二人の仲は相当に深まってきています。かつてのういいういしい関係ではないのですが、しみじみと添寝しているという印象です。

続いて第四歌集『路上』の作です。

秋かせの信濃に居りてあを海の鷗をおもふ寂しきかなや

「鷗」がうたわわれています。「牧水鳥」には十数首が紹介されています。山あいの村に育った牧水は後に日向灘の海岸で鷗に出会い、親しい鳥になります。早稲田の学生のころは、東京と宮崎の往復に瀬戸内海を船で航行していますが、鷗の姿をしばしば眺めたことでしょう。ただ、この歌は鷗を見ての歌ではありません。秋の長野県の山にいて海の鷗を見たいと歌っている作です。美しい秋景色の信濃に自分から願って来ておりながら、急に海上を舞っている鷗を見たくなる心はなんと寂しいことだろう。そんな一首とおもいます。山と海に対する両方のあくがれを強く抱いている牧水らしい歌です。この時期に書いた手紙



左から『死か芸術か』『みなかみ』『砂丘』

によると、牧水は冬の日本海に行きたかったようですが、恋人の園田小枝子が結婚問題などの相談に突然訪れてきてその願いはかないませんでした。

続いて第五歌集『死か芸術か』の歌です。

灯台の青いろの灯もとりきぬ啼く音を
やめよ浪間の千鳥

「千鳥」といえば、『万葉集』の柿本人麻呂の「近江の海夕波千鳥汝が鳴けば心もしものいにしへ思ほゆ」や山部赤人の「ぬばたまの夜のふけゆけば久木生ふる清き川原に千鳥しば鳴く」の名歌を思い浮かべます。『牧水鳥』には千鳥の歌が二十数首出ています。この歌は神奈川県三浦半島の三崎を訪れた旅の歌

で、日が暮れてかなしさがまきつているときに千鳥の鳴くのを聞くともつと切なくなるので鳴かないでくれと歌っています。と言いなから、千鳥がいなかったり、いても鳴かなかつたりだったら、牧水はまたきつと寂しかったでしょうね。

第六歌集『みなかみ』から引きます。この歌集は東京にいた牧水が、父親が病氣となり帰郷した時の作を取めています。

啼け、啼け、まだ啼かぬか、むねのうち
の藍いろの、盲目めしひのこの鳥

自分のある気持ちというか、情念というか、胸の内にある思いを「鳥」の比喻で表現しています。「藍いろ」は植物の藍からとつた色で、青よりも濃く、くすんだ色です。その鳥は目が見えないというのです。見るからに悲しげで、どの方向に行つたらいいのかわからない鳥、そんな鳥が胸の中に棲んでいて、しかもつらければ啼けばいいのに啼きもしないでいる、おまえもつと啼け啼け、という歌でしょうか。

初句が四音、二句は六音、三句は六音、四句は五音、結句は八音です。いわゆる破調の歌です。五七五七七の定型を破つたりリズムが切迫感をより感じさせます。牧水は東京から

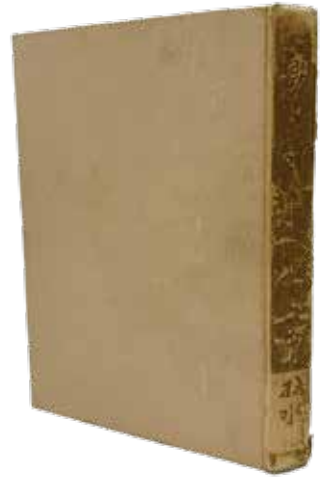
帰つたもののやがて父親は死去してしまいました。一人残された母親のためにこのまま故郷にとどまるか、文学のために再び上京するか、苦悶の日々が続いていたころの作です。

第七歌集『砂丘』から引きます。父親の死後、上京し、妻喜志子と長男旅人の三人の暮らしが始まります。そんなあるとき、一人で夏に長野県へ旅します。

ほととぎすかけす檉鳥かへすひよ鳥なきやまぬはざま峽間の
昼くわくの郭公こうこうのこゑ

牧水は鳥の声をよく聞き分けています。この歌では四種類の鳥が啼いており、その声に耳を澄ましています。他の歌人の作ではこのような歌は少ないと思います。ほととぎすは先ほど出てきました。「檉鳥」はかしどりと言つたり、かけすといつたりします。カラス科の鳥で、『牧水鳥』には十数首出ています。「ひよ鳥」はもつと多く二十数首出ています。そして、「郭公」は二十首ほど出ています。『牧水鳥』に説明が出ているように郭公は繁殖期の雄の声の「カッコウ、カッコウ」の大きな通る声がよく知られています。いかにも鳥の好きな牧水の短歌です。

続く第八歌集『朝の歌』からは二首引きます。



『朝の歌』

啄木鳥の真赤き頭あたまひつそりと冬木ふゆぎ桜さくらに木
つつきゐたり

「啄木鳥」の歌です。「牧水鳥」に二十首近く出ている鳥です。キツツキのこの漢字から誰しも石川啄木を思い浮かべるでしょう。啄木と牧水は親友と言つていい仲でした。大正五年に牧水は東北地方への旅に出かけ、盛岡では古城址を訪れています。この古城址は啄木が少年時代によく過したところです。そこを訪れて牧水は啄木を偲ぶ歌を詠んでいません。代わりにと言つていいでしょうか、牧水は啄木鳥を詠んでいるのです。そう思つてこの一首を味わうと、「真赤き頭ひつそりと」にも「冬木桜に木つつき」にもしみじみとした味わいを感じられます。孤独な啄木の死を

悼む歌です。明治四十五年四月の啄木の死を枕元で見取つたのは家族の他は牧水だけでした。

啼く声のやがてはわれの声かともおもは
るる声に筒鳥は啼く

「筒鳥」の歌が「牧水鳥」に十首あまり出ています。「ぼ、ぼ」と空筒を打つような声で啼くので、この名があります。牧水は筒鳥の啼く声が好きで、その啼き真似を学生時代からしていたのを、早稲田の同級生だった北原白秋がエッセイに記しています。そんな筒鳥をどれだけ好きだったかを見事に示している一首です。鳥の声を「われの声か」と思われるとは誰でも言えそうで誰にも言えない気がします。比叡山での歌です。
たくさんの鳥の歌がはいっている第十三歌集『くろ土』から多く引きます。

ちちいびいびいとわれの真うへに来て啼
ける落葉が枝の鳥よなほ啼け

「鳥」の鳴き声があうたわれています。牧水は大正七年十一月に群馬県への旅に出かけます。多くの歌と紀行文を残している有名な旅です。「みなかみへ」の大連作から引きました。利根川の溪にそつて歩き、谷川温泉に向かつて

いる際の一首です。まず「ちちいびいびい」の鳴き声の表現がかわいらしいですね。牧水の真上の枝で親しく鳴いているのです。

「なほ啼け」に牧水の気持ちが出ています。この歌の前後の作を読むと、鳥に詳しい牧水も名前を知らなかった鳥のようです。いまだ知らない友人に会つたような心持ちだったかもしれません。この歌に続く作を引きます。

枯れし葉とおもへる鳥のちちちちと枯枝
わたり高き音ねをあぐ
あたりみな光りひそまる冬山の落葉木が
くれこの小鳥啼く
木の根にうづくまるわれを石かとも見て
怖おそぢざらむこの小鳥啼く
見てをりて涙ぞ落つる枯枝の其処に此処
にし啼きうつる鳥を



『くろ土』

小鳥に対する親愛の心が素直に伝わってくる作です。三首目の自分を石かと思つての歌などはユーモラスですね。さらに続きます。

手にとらばわが手にをりて啼きもせむぞ
この小鳥を手にも取らうよ

小鳥を手にとりたくなつたのですね。手の上のせても啼いてくれるのではないかと、楽しい想像をしています。結句の「手にも取らうよ」の口語表現に注目したいです。文語表現なら「手にも取らむか」でしょうか。一連全体が文語調のなかで、ここだけはしぜん口語の言い方になつたのでしょうか。

水色の羽根をちひさくひろげたりと見れば
糞は落ちはなれたり

少し後にはこんな歌もあります。上の句はいかにも美しくかわいらしい小鳥の動きです。その小鳥が思いがけなく糞をしたというのです。なるほどそのため小鳥は羽根をひろげたのだなど牧水は納得しています。そして、人によつては小鳥が糞をするところなど見たくない、がっかりだという者もあるでしょうが、牧水はちがいます。うまく糞が出てよかつたなど思っています。「糞」を主語にした下の句には牧水の安心感が感じられます。な

んともおかしみを味わう歌でもありますね。糞をきちんと出せることは小鳥の身体にとって大事なことであると考える牧水がいます。人間中心の立場から鳥を眺めるのではなく、鳥の身になつて鳥を眺めています。

牧水は大正九年の八月に東京から沼津に移り住みます。いくつかの理由が考えられますが、沼津の豊かな自然が大きな魅力だったことはまちがいありません。香貫山の麓で暮らしはじめます。「くろ土」から引きまします。

富士が嶺に雲かかりたりわが門のまへの
稲田に雀とびさわぎ

牧水にとつて富士山は大きな魅力でした。もちろん、身近な香貫山、そして富士山の前に垣なす愛鷹山も。雲のかかつていない富士山は美しい眺めですが、牧水は雲がたなびいたりしている富士山も愛しました。この歌の富士山も雲がかかっています。特色は大きな富士山と小さな雀たちを等価とみていることでしょう。雀たちは飛び騒いでいるのを富士山に見てくれといっているのではないし、富士山も雀たちの姿は見えていないのでしょうか、富士山と雀たちが気持ちを通じ合っているのではないかとおもわせる歌です。牧水はそう感じていたのではないのでしょうか。



『山桜の歌』

続いて第十四歌集「山桜の歌」の作品です。

天つ日にひかりかきろひこまやかに羽根
ふるはせて啼く雲雀見ゆ

「雲雀」の歌は『牧水鳥』に二十首以上出ています。初句の「天つ日」の言葉が風景を大きく見せますね。そして、雲雀の「羽根ふるはせて」は鳥の羽根の細かな動きを見逃さずとらえています。前の歌は富士山と雀でしたが、この歌では大きな光り輝く空と小さい雲雀が等価に思えます。大空が単に背景として歌われているのではない気がします。雲雀の歌をもう一首引いておきましょう。

かそけくも影ぞ見えたる大空のひかりの
なかに啼ける雲雀は

沼津は言うまでもなく山も海も美しいところですが、今度は海の歌を引きます。

海鳥の風にさからふ一ならび一羽くづれてみなくづれたり

「海鳥」は鳥の固有名詞ではありませんが、『牧水鳥』にはこの歌をふくめて八首でています。静浦での歌です。この歌はじつは牧水作品のなかで誰も取りあげたことのない一首だったのですが、佐佐木幸綱さんが「絶品である」と評価して有名になった作です。その「歌は翼」という牧水論は牧水にとつて鳥とは何だったか、鳥を通して何を歌おうとしたのか画期的な歌人論です。佐佐木さんの『底より歌え 近代歌人論』に収録されています。この歌については「観察と描写に基盤を置いた歌であるが、読後何とも言いようのない荒涼とした虚無感を味わわれる絶品である」と言っています。なるほど不思議な魅力をもつうたですね。

秋^{あき}百舌鳥^{もず}の高啼くこゑは軒にひびき部屋に響きて居るにをられぬ

「百舌鳥」は『牧水鳥』に三十首ほど出ています。牧水がよく歌った鳥の一つです。百舌鳥といえは秋を知らせる鳥ですが、冬もい

ます。この歌で「秋百舌鳥」と言っているのは文字通り秋を知らせる時期のもずだったからでしょう。ああ、百舌鳥が啼いている、もう秋なのだ、それにしても部屋まで響く鋭く甲高い声よ、と。「居るにをられぬ」が率直な表現でユーモアがありますね。

最後に第十五歌集『黒松』から引きます。牧水の最終歌集で、没後に出版されました。その代表的な一連に「沼津千本松原」の大作があります。

樂しげの鳥のさまかも羽根に腹に白々と
冬日あびてあそべる

鴨^{ひよ}の鳥なきはしたる松原の下草は枯れ
てみそさざいの声

窓^{まど}さきの竹柏^{たけのく}の木に来て啼ける百舌鳥^{もず}羽
根ふるはせて啼きてをるなり

松葉かくおともこそすれみそさざいあを
じあどりの啼ける向うに

ほからかに冬日さしたる松が枝に群れあ
そぶ鳥^{とり}の姿^{なり}のさまさま

まふ時し黒く見えつつ冬日あびてとまれ
る小鳥ほの白きかも

鶯^{うす}をさだかにぞ見し枯草にこもりささな
くそのうぐひすを

七章にわかれている各章に鳥が出てきます。



『黒松』

千本松原は樹木もその下草も牧水の好みでしたが、そこで遊ぶさまさまの鳥たちも牧水にとつては大きな喜びだったことがわかります。鳥の姿を目で楽しみ、鳴き声を耳で楽しんでいます。

一首目は鳥の姿を楽しみ愛でています。「羽根に腹に白々と」がいいですね。二首目は鴨とみそさざいです。牧水は両方の声を聞いています。「牧水鳥」に「みそさざい」は二十首ほど出ています。かわいらしい声を愛した

のでしよう。三首目は百舌鳥の姿と声です。四首目は、「みそさざい」、「あをじ」、「あとり」の三種の小鳥が歌われています。三つの小鳥の声を聞き分けているのですね。『牧水鳥』に「あをじ」は三首でありますが、「あとり」はこの歌のほかにはありません。胸のオレンジ色の目立つ鳥です。あまり見る機会がなかったのでしょうか。五首目は鳥の姿のさまざまなを楽しんでいます。小鳥と一口に言っても、その大小の姿形はじつにさまざまで、飛び方もそれぞれ個性があります。結句「姿のさまざま」はシンプルな表現ながら奥深さがあります。六首目は「黒」と「白」の対比があげやかです。深読みできそうな歌です。七首目は笹鳴きの鶯です。「鶯」は『牧水鳥』に六十首ほど出ているので、牧水がよく歌った鳥といえるでしょう。

それでは牧水が世を去った昭和三年の鳥の歌を最後に引きます。

障子ごしに聞きをれば其処そこの木に居りて
啼く頬白のうつつなげの声

「頬白」は『牧水鳥』にこの歌を含めて七首出ています。「うつつなげ」の「うつつ」は現実の意味ですから「うつつなげ」は現実感をうしなっている、ほんやりしているという

意味でしょう。頬白の声が「うつつなげ」と歌っていますが、聞いている牧水の方が「うつつなげ」であったはずですが、それをあえてこのように歌っているところが作品としては面白いです。牧水は中学時代に「日当りの柱に倚りてうつつなや白菊の香のただせまりくる」とすでに「うつつな」の語を使っており、ある意味では牧水理解のキーワードのひとつですが、生涯の最後にまた「うつつなげ」の語を使っています。「うつつ」と「うつつなげ」のあわいを生きた牧水の人生と歌だったと私は思います。

牧水の鳥の歌を愛読する私も鳥の歌を多く歌ってきました。第一歌集のタイトルは『瞑鳥記』でした。五首だけ引かせてもらいます。

鶴の首夕焼けておりどこよりもさびしき
ものと来し動物園 『瞑鳥記』
おとうとよ忘るるなかれ天翔ける鳥たち
おもき内臓もつを 『瞑鳥記』
水の上の梢に啼ける頬白よ選びてわれは
人ならざりき 『森羅の光』
まつさらの一日一日を生きてゐる鳥の尾
つかひ時に激しも 『微笑の空』
翼ひねがふ鳥のこゑ降る林なりひもじさこそ詩
ひもじさこそ歌 『土と人と星』

「追記」

この二〇二三年十一月十八日の講演は、沼津牧水会理事長の林茂樹氏の御依頼によるものでした。林氏から親しくお電話をいただき、久しぶりに沼津を訪ね、林氏や沼津牧水会の皆さんにもお目にかかりたくて喜んで承知しました。

講演当日は林理事長の懇切な御挨拶をいただきました。榎本篁子館長にも御挨拶できました。会場には久しぶりの沼津牧水会のお顔がありました。講演終了後の懇親の宴にも林理事長は御出席くださいました。きつとお体がつかつたのに違いありません。しかし、少しもそんな様子は見せられず口に出されず、いつも通りの快活さで宴の場を盛りあげてくださいました。

会が終わって別れの時に思わず林理事長と抱きあいました。私は大きな感謝をこめて。林理事長が牧水顕彰のためにどれほど献身的に活動されたことか。林理事長の業績は今後長く語り続けられると思います。

林さん、有難うございました。

沼津市制百周年記念

文化講演会「牧水鳥の歌」 伊藤一彦先生

沼津市制百周年記念事業を記念し、令和五年十一月十八日(土)に、伊藤一彦先生による「牧水鳥の歌」の演題での文化講演会を開催いたしました。まず、林茂樹理事長の挨拶があり続いて、伊藤先生が沼津との関係についてお話をされ、牧水の歌についての講演が始まりました。参加者は時に笑いを交えながら、集中して聞き入っている姿がみられました。四十八人が参加していただき、席も満杯になりました、充実した講演会が開催できました。



「筆者プロフィール」 いたう かずひこ

昭和十八年宮崎市に生まれる。早稲田大学哲学科卒業。在学中に短歌を始め、卒業後は帰郷し教職の傍ら作歌活動をつづける。同郷の歌人、若山牧水を研究。現在、日向市の若山牧水記念文学館館長。牧水研究会を主宰して、雑誌「牧水研究」を発行。「若山牧水歌集」(岩波文庫)を編集。「牧水の心を旅する」(いざ行かむ、また見ぬ山へ)「ぼく、牧水!」(若山牧水その親和力を読む)「牧水・啄木・喜志子」をはじめ多くの著作がある。主な歌集に「海号の歌」(説売文学賞)、「新月の蜜」(寺山修司短歌賞)、「微笑の空」(逍空賞)、「月の夜声」(斎藤茂吉短歌文学賞)、「待ち時間」(小野市詩歌文学賞)などがある。毎日新聞歌壇選者。雑誌「心」の花会員。若山牧水賞などの選考委員を務める。令和四年に旭日小綬章(芸術文化功労)を受賞したことを祝して令和五年九月から十一月まで日向市の若山牧水記念文学館で記念の企画展が開催された。



沼津市制百周年記念

記念出版『牧水鳥』

沼津市制百周年記念事業の一環として、令和五年七月一日の沼津市市制記念日に、『牧水鳥』を刊行した。

牧水は鳥が大好きで、鳥の姿や声を聞くことを目的として出かけた。

『牧水鳥』をとおして、牧水の鳥への熱い想いに共感していただきたい。

なお、本会は、『牧水鳥』を沼津市教育委員会をとおして、沼津市小中学校に総数二百五十八冊を寄贈した。

『牧水鳥』は頒価千二百円。

牧水の思い羽ばたく

沼津市立中央図書館
沼津市立中央図書館



沼津の顕彰会

沼津で晩年過ごした俳歌人若井牧水（1884～1983年）は、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。牧水顕彰する沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

没後95年「鳥の歌」一冊に

『鳥の歌』は、没後95年、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。牧水顕彰する沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

小中学校に寄贈「自然愛した姿伝えたい」



沼津牧水会理事長（左）から『牧水鳥』を寄贈する林啓樹（沼津牧水会理事長）と若井山崎学校校長（右）

表紙は、空の鳥の鳴き声。多くの花開きの歌を詠み、鳥の姿や声を聞くことを目的として出かけた。『牧水鳥』をとおして、牧水の鳥への熱い想いに共感していただきたい。

令和5年7月5日（水）毎日新聞

沼津牧水会『牧水鳥』を刊行

市内の公私立小中学校に寄贈

公益社団法人沼津牧水会（林啓樹理事長）は、沼津市制100周年を記念した『牧水鳥』を刊行した。



沼津牧水会の林理事長（左）から『牧水鳥』の寄贈が山崎学校校長に贈られた。

『牧水鳥』は、没後95年、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

『牧水鳥』は、没後95年、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

『牧水鳥』は、没後95年、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

『牧水鳥』は、没後95年、鳥を詠んだ短歌を49冊残している。沼津牧水会は鳥まつりや牧水展、講座、映画、詩集、旅行文などから『牧水鳥』を編集し、『牧水鳥』を刊行した。

令和5年7月7日（金）沼津朝日新聞

沼津市制百周年記念

特別企画展「若山牧水 鳥の歌」——いきとしいけるものうた——

併せて、「近代歌人等による鳥の歌」

令和五年九月十二日（火）～十月九日（月）

沼津市制百周年記念事業の一環としての「特別企画展」は、九月十二日（火）午前十時、榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長、林敬博沼津市教育委員会文化振興課長並びに長澤靖夫特別企画展実行委員会委員長によるテープカットでオープニングとなりました。

このたびの特別企画展「若山牧水 鳥の歌」は牧水が詠んだ歌の中で、鳥たちに焦点を当てて紹介し、他の歌人の鳥の歌を同時に紹介しながら、掛け軸を作成し展示いたしました。

牧水と他の歌人を比較しつつ、牧水の自然観を感じていただき、ご来場の皆様方がそれぞれの感性で、ご自由に楽しんでいただけたことと思います。

また、九月二十七日（水）午後二時、公益財団法人日本野鳥の会沼津支部の本多功支部長をお招きして「牧水が詠んだ鳥について聞こう」と題しての講演会が行われました。

モニターを使いながら鳥の紹介を聞きました。参加者は十七名でした。

なお、今回の「特別企画展」への入場者は、三四人でした。





9月12日（火）オープニングセレモニーの様子



9月27日(水)講演会の様子

沼津の記念館「鳥の歌」企画展

牧水の自然観感じて

若山牧水(1885~1928年)が詠んだ鳥の歌を通じ牧水の自然観を感じてもらおう企画展「若山牧水 鳥の歌 いきとしいけるものうた」が12日、沼津市本の若山牧水記念館で始まった。開幕式で牧水の孫、榎本篤子さん(88)は「牧水の愛した沼津で、牧水の生まれ年の鳥の企画展が開かれることに大変感謝申し上げます」と述べた。

企画展は沼津牧水会が、短歌や詩を本にまとめて鳥をテーマにした牧水の出版したことにちなむ。



企画展のテラップットをする沼津牧水会関係者ら
川いずれも沼津市本の若山牧水記念館で

委員長は「歌をどう捉えるかは自由。決めつけるのは邪道ではないかと、あえて解説はしなかつた」と、見る者の想像を膨らませる展示の意図を話した。

牧水の鳥の歌と他の歌人の鳥の歌を並べる趣向で、例えば牧水の「白鳥は哀しからずや空の青海のあそにも染ますただよふ」の横には水原紫苑さんの「白鳥はおのれが白き鳥なら心空ゆく群れに生者死者あり」が掲げられている。長沢増夫実行



祖母から若山牧水の思い出を聞いて育った孫の榎本篤子さん

孫の榎本さん「愛した地で開かれ感謝」

仏法僧仏法僧と啼く鳥の声をまねつつ飲める酒かも

(大正一五年)

第70回沼津牧水祭 短歌大会

十月一日(日)
午前十時三十分
沼津市立図書館
四階視聴覚ホール



第七〇回「沼津牧水祭・短歌大会」は、講師に「心の花」編集委員で、第三歌集『花』で第二七回若山牧水賞を受賞された奥田亡羊先生をお迎えして開催された。会場は先生の穏やかなお話で落ち着いた雰囲気の中催された。応募短歌は一〇三首、参加者は六三人であった。

午前は「ゾーン」に入る牧水後期の三十首と題する講演があった。奥田先生はゾーンと牧水の短歌に焦点を当ててお話をされました。「ゾーン」とはボクシングに例えるならパンチの瞬間の軌道が見えたり、野球ならバッターがボールを打つ時に止まって見えるよう

な感覚。牧水はそういった感覚の歌が多いのではと思う」と語った。そして、先生が選んだ牧水後期の三十首についてお話しされた。「名歌を探し出せたら短歌をやっているかがある。しかし名歌というものは説明ができない」そして牧水と啄木の歌を比較するため数首紹介した。

牧水と啄木は明治四十年頃から活躍し始め、地方出身者であり故郷、家族、恋、とテーマが重なるという共通点があるが牧水は前向きに歌い、啄木は後ろ向きに歌う歌人だ。牧水は明るい歌を維持し、暗い歌は朗詠できないと思う。

「心を歌うことを重視しがちだが、風景を歌うことも大事ではないか。希望につながる歌は難しいが、歌は明るく作ってほしい」とおっしゃった。とても有意義な講演となった。午後は、参加者の出詠作品についての講評と表彰式が行われた。先生は一首ずつゆつくりと丁寧に講評されて、参加者は真剣に聞き入った。

奥田先生選の沼津牧水賞三首と出詠者による互選賞七首を紹介する。

沼津牧水賞一席 西東京市 和田直樹
少年は群れているから淋しくて千本浜
を駆け出してゆく

沼津牧水賞二席 沼津市 勝俣徳夫

骨壺に入らぬ妻の両膝の鉄の塊抱いて
帰りぬ

沼津牧水賞三席 掛川市 村松建彦

「許せし」を許しし明治三十八年「文法
上許容すべき事項」

市長賞 沼津市 勝俣徳夫

骨壺に入らぬ妻の両膝の鉄の塊抱いて
帰りぬ

市議会議長賞 静岡市葵区 杉山春代

まだ嘯める手紙を書ける家事できる「ま
だ」とは生きる道しるべなり

教育長賞 沼津市 山田純子

「休肝日」下に小さく「定休日」酒屋の
主人の手書きなる文字

商工会議所会頭賞 浜松市南区 大庭拓郎

紙切れの「ありがとうね」をふところに
亡妻の手書きと話してねむる

観光協会会長賞 秋田県大仙市 鈴木 仁

まっすぐに話しかければ真っ直ぐに夢
を語りし生徒の瞳

沼津朝日新聞社賞 裾野市 田中久子

水湛ふ田の面おほに在す逆さ富士つかの間の
静 田植急待ちをり

マルサン書店賞 静岡市清水区 伊藤 純

水無月の空の低きを今日ふたつタチア
オイの赤咲きのぼりゆく

第70回沼津牧水祭

碑前祭・芝酒盛

十月十五日(日)午前十一時

第七十回沼津牧水祭碑前祭・芝酒盛は雨天のため規模を縮小し、若山牧水記念館にて開催することとなった。しかし十一時には快晴となり、気持ちの良いお祭り日和となった。

沼津市長代理の剛谷明正理事、教育長代理の山本貴史教育次長、高橋達也市議会議長をはじめとする市議会議員、県議会議員有志の方々にご臨席をいただき、田原大三東京牧水会会長、伊藤輝和愛知牧水顕彰会事務局長など、遠方からもご参加いただいた。

牧水「幾山河」歌碑への献花・献酒は、碑前祭開始の前に榎本篁子沼津市若山牧水記念館館長、新美麻里様、榎本岳人様ご夫妻、山



崎亮沼津市
教育委員会
文化振興課
副主任、事
務局大島葉
子とで滞り
なく行った。

林茂樹沼津牧水会理事長の開会の挨拶、来賓を代表しての剛谷理事と山本教育次長の祝辞のあとに、榎本館長のご挨拶と続いた。花柳凜様が大悟法利雄氏朗詠による牧水短歌と詩をバックに日本舞踊を披露され、その優美な舞は、参会者の皆を魅了し、拍手喝采を浴びた。次に、「中学生短歌コンクール」の表彰式が行われ、特選十首に選ばれた中学生たちが、温かい拍手の中、表彰された。高田紹代様による牧水の「沼津を詠んだ歌」四首の独唱と「牧水のうた」を歌う会の合唱の美しい歌声が、館内に響き渡り、「碑前祭」の式典を終えた。

剛谷理事、山本教育次長、高橋市議会議長、田原会長、伊藤事務局長、榎本館長による鏡開きにつづき、高橋市議会議長の乾杯の音頭で、「芝酒盛」の開始となった。桃中軒のオリジナル弁当と、我入道漁協の揚げ物などを肴に、「地酒」を酌み交わしながら、談笑しあい、



楽しい雰囲気にも包まれた。再び登場した高田紹代様の牧水「酒の歌」四首の独唱、ぬまづ観光ボランティアガイド・沼津ハーモニカクラブ・千本ハーモニカクラブ合同での合唱・合奏、みんなで歌おう「日本の歌 牧水の歌」と続いた。

屋内での開催となったが、約三百人の方々にご参加いただき、笑顔あふれる暖かい雰囲気のお祭りとなった。参加された皆さまのご協力により、明るくにぎやかに開催できたことに、関係者一同厚く御礼申し上げます。お忙しい中、お手伝いいただいた方々にもこの場を借りて、重ねてお礼申し上げます。

第36回
雛の歌会

三月三日(日)
午後一時三十分
沼津市若山牧水
記念館ラウンジ



令和六年三月三日(日)、第三十六回「雛の歌会」が沼津市若山牧水記念館で開催された。講師は「八雁」主宰の阿木津英先生である。天気予報は曇りであったが、富士山もきれいに見え、晴天の歌会となった。応募短歌は八十五首、参加者は五十三名だった。

司会の永久保英敏副理事長が、阿木津英先生について紹介するとともに、阿木津先生の「八雁」の「創刊の辞」や短歌を紹介した。続いて阿木津先生の若山喜志子の「老いの歌」と題された講演が行われた。

阿木津先生が短歌を始めた頃は、自分の思いを吐露する短歌を作る女流歌人がなかなか

いない時代だった。若山喜志子は自分の思いを吐露する歌を作る数少ない女流歌人の一人であるとして、若山喜志子の短歌を五首選びだし紹介した。講演につづいて、出席者の詠草を中心に講評が行われた。

先生の選ばれた短歌十首について紹介する本年度限りにさせて下さいの賀状二枚を繰り返し読む 黒柳 爽

年賀状を何度も見ながら、昔のことを思い返している様子がよくわかる歌。「下さいの」の「の」の使い方を考えるともっと良い。武器輸出 認可するとの記事みつれ溜息

ひとつ新聞畳む 菅野隆江

「溜息ひとつ」に作者の無力感を表わし、「新聞畳む」で無力感を持ちながら日常に戻るといふ作者の様子がよくわかる歌である。味噌甕の二つは友に貰はれて銀色メダカ

の住ひとなりぬ 宮川良子

前半はとても良い流れ。泳いでいるメダカに「住ひ」と使うのは、考えるべきである。「良き友へ」と刺繍のされた額届きアメ

リカの日々目に浮かび来る 古長谷達子 作者の気持ちがよく届く歌である。しかし、刺繍の描写をもっとわかりやすくするとよい。

苔地蔵のふかき眠りの右ほほを撫でて朝のひかりすべり来 佐藤優羽

大方できている歌。「なでる」と「すべる」が呼び起こす感情が違う言葉だが重複した使い方をしている。そこが少し残念である。おのづから聖なるものにふれるごと赤子

抱きし若き日のあり 尾崎知子

どんな場面でそう思ったのかが伝わらないのもっとどんな時なのかがわかるとよい。転職の面接場所は駅裏の屋台なりけり以

後半世紀 石川義倫

この歌は何も言っていないが、社長の風貌など、歌の背景がよくわかる歌で完成している。付き添いはもういらないと孫むすめ赤ラ

ンドセルを揺らしつつ行く 大野正隆

これもよくわかる、このままで良い歌。「孫むすめ」という響きもいい。今はもう仏間となりし妻の部屋障子明り

が畳にとどく 小畑定弘

一人になつて寂しい気持ちがよく伝わってくる歌である。珠洲市とふ美しき地名に出会ひしは能登

の地震の元旦夕 池田祥子

「美し」と使っているが、「美し」と使いたい。どの短歌も共通して、言葉の選び方、使い方

をよく考え、聞き手の立場に立って聞き直し、理解のしやすさを大事にして欲しいと締めくくられた。

文化講座

書道講座

日時 令和5年4月～令和6年3月 毎月第3火曜日 午後(全10回)

講師 成田真洞氏



初心者のための短歌講座

日時 令和5年4月～令和6年2月

毎月 第2土曜日 午前(全10回)

講師 永久保英敏氏

牧水記念館短歌会

日時 令和5年4月～令和6年2月

毎月 第2土曜日 午後(全10回)

講師 永久保英敏氏



サロン音楽の夕べ

沼津市若山牧水記念館ラウンジ

質の高い音楽を～孤高のコントラバス奏者3人 夢の競演～Contrabass Solo×3

日 時：令和5年8月19日(土) 午後6時30分

出 演：金澤英明(コントラバス)

吉野弘志(コントラバス)

吉田 秀(コントラバス)

来場者：68人



古楽コンサートシリーズ41 サクバットとチェンバロの夕べ

日 時：令和5年11月25日(土) 午後6時45分

出 演：野村美樹(サクバット)

杉山佳代(チェンバロ)

来場者：39人



令和5年度事業報告

1 総会
第37回定時会員総会
日時:令和5年5月13日(土)午後3時～4時10分

会報 第36号 令和5年5月15日発行
館報 第71号 令和5年9月1日発行
第72号 令和6年3月5日発行

2 理事会
第1回(通算196回)理事会 令和5年4月14日(金) 午後6時10分～8時10分
第2回(通算197回)理事会 令和5年8月22日(火) 午後5時45分～6時40分
第3回(通算198回)理事会 令和5年12月15日(金) 午後6時～7時
第4回(通算199回)理事会 令和6年2月16日(金) 午後6時～7時50分

1 調査研究事業

- 若山牧水関係資料の収集
- 第73回 日向市の「牧水祭」へ祝電(主催:日向市、日向若山牧水顕彰会)
日時:令和5年9月17日(日)午前9時30分
会場:宮崎県日向市東郷町坪谷 若山牧水生家東側夫婦歌碑前及び牧水公園「ふるさとの家」
- 第67回 暮坂峠「牧水まつり」(主催:牧水詩碑保存会)
日時:令和5年10月20日(金)午前11時
会場:群馬県吾妻郡中之条町 暮坂峠
* 新型コロナウイルスの感染症拡大防止のため、祭壇の設置のみ行われた。
- 第23回「百草園牧水歌碑祭」へ参加(主催:東京牧水会)
日時:令和5年10月29日(日)午前11時
会場:東京都日野市百草 京王百草園 牧水歌碑前
参加者:金子安夫、原悦子、三宅芳則、山下敦高
- 宮崎県立図書館特別展「若山牧水 ～牧水と震災～」へ資料貸出
開催期日:令和5年11月11日(土)～12月10日(日)
会場:宮崎県立図書館 本館特別展示室
貸出資料:中村柊花宛 震災見舞い 礼状ほかデジタルデータ4点
- 第28回 若山牧水賞授賞式
(主催:宮崎県、宮崎県教育委員会、宮崎日日新聞社、延岡市、日向市)
日時:令和6年2月1日(木)午後3時
会場:授賞式 宮崎市 ガーデンテラス宮崎
- 第90回 延岡市の「牧水歌碑祭」へ祝電(主催:若山牧水延岡顕彰会)
日時:令和6年3月17日(日)正午
会場:延岡市 城山公園内 牧水歌碑広場

2 第70回沼津牧水祭の運営

- 短歌大会
日時:令和5年10月1日(日)午前10時30分～午後4時30分
会場:沼津市立図書館 視聴覚ホール
講師:奥田 亡羊先生(「心の花」編集委員、第27回若山牧水賞受賞者)
応募短歌:103首
参加者:63人
- 碑前祭・芝酒盛
日時:令和5年10月15日(日)午前11時～午後2時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
参加者:270人

3 沼津市制100周年記念特別事業

- 記念出版 『牧水 鳥』令和5年7月1日発行
- 記念企画展 若山牧水 鳥の歌 いきとしいけるものうたー併せて、「近代歌人等による鳥の歌」
日時:令和5年9月12日(火)～10月9日(月)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:347人
・ 牧水が詠んだ鳥について聞こう
日時:令和5年9月27日(水) 午後2時～午後4時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:本多 功先生(公益財団法人日本野鳥の会沼津支部長)
参加者:17人

- 記念講演会「牧水 鳥の歌」
日時:令和5年11月18日(土) 午後3時～午後5時
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師:伊藤 一彦先生(若山牧水記念文学館館長、毎日歌壇選者)
参加者:48人

4 文学講演会及び文学講座等の開催

- 第36回「雛の歌会」
日時:令和6年3月3日(日) 午後1時30分～4時30分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
講師:阿木津 英先生(「八雁」主宰)
応募短歌:85首
参加者:53人
- 初心者のための短歌講座
日時:令和5年4月～令和6年2月
毎月第2土曜日 午前10時～12時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:永久保 英敏氏
参加者:10回開催 延べ126人
- 牧水記念館短歌会
日時:令和5年4月～令和6年2月
毎月第2土曜日 午後1時30分～3時30分
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:永久保 英敏氏
参加者:10回開催 延べ73人
- 書道講座
日時:令和5年4月～令和6年3月
毎月第3火曜日 午後1時～3時
会場:沼津市若山牧水記念館会議室
講師:成田 真洞先生
参加者:10回開催 延べ92人
・ 令和5年度「書道講座」受講者作品展示
期日:令和6年3月5日(火)～令和6年3月24日(日)
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
入場者:189人
- 第34回「中学生短歌コンクール」募集・表彰
募集期間:令和5年5月1日(月)～令和5年7月31日(月)
応募短歌:1,438首(19校 1,438人)
入選短歌:特選10首、入選40首
選者:永久保 英敏、河本 尚子、湯山 昌樹、勝俣 文子
表彰:令和5年10月15日(日)「第70回沼津牧水祭・碑前祭」にて
- 音楽イベント
第1回 孤高のコントラバス奏者3人 夢の競演contrabass solo×3
日時:令和5年8月19日(土) 午後6時30分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:金澤 英明、吉野 弘志、吉田 秀(コントラバス)
来場者:68人
第2回 古楽コンサートシリーズ41 サクパットとチェンパロの夕べ
日時:令和5年11月25日(土) 午後6時45分
会場:沼津市若山牧水記念館ラウンジ
出演:野村 美樹(サクパット)、杉山 佳代(チェンパロ)
来場者:39人

公益社団法人沼津牧水会定款（抜粋）

- 第一条 この法人は、公益社団法人沼津牧水会と称する。
- 第二条 この法人は、主たる事務所を静岡県沼津市千本郷林一九〇七番地の二に置く。
- 第三条 この法人は、歌人若山牧水を顕彰し、文学的業績の研究を深め、短詩型文学の普及を図り、もって、教育文化の振興に寄与することを目的とする。
- 第四条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 歌人若山牧水に関する調査研究
- (2) 沼津牧水祭（短歌大会及び碑前祭）の運営
- (3) 文学講演会、文学講座等の開催
- (4) 沼津市若山牧水記念館の管理運営の受託
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 第五条 この法人に次の会員を置く。
- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人又は団体
- (2) 賛助会員 この法人の事業を援助する個人又は団体
- (3) 名誉会員 この法人に特に功労のあった者で、会員総会の決議をもって推薦されたもの
- 第六条 前項の会員をもって、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- この法人の会員にならうとするものは、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を受けなければならない。ただし、名誉会員に推薦された者は、入会の手続を要せず、本人の承諾をもって会員となるものとする。
- この法人の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員になった時及び毎年、会員は、会員総会において別に定める額を支払う義務を負う。
- 第七条 公益社団法人沼津牧水会入会金及び会費規程
- 第一条 この規程は、公益社団法人沼津牧水会定款第七条に基づき、入会金及び会費について定めることを目的とする。
- 第二条 定款第七条第一項に規定する入会金は、次のとおりとする。
- (2)(1) 正会員 一〇、〇〇〇円以上
- (2)(2) 賛助会員 三〇、〇〇〇円以上
- 第三条 定款第七条第一項に規定する会費は、次のとおりとする。
- (2)(1) 正会員 五、〇〇〇円（年額）
- (2)(2) 賛助会員 一〇、〇〇〇円以上（年額）
- | | |
|------------------------|-------------|
| （理事長）金子 安夫（副理事長）河辺龍二郎 | 永久保英敏 |
| （理事）浅井 治 田中 和男 長澤 靖夫 | 河本 尚子 飛澤浩四郎 |
| （監事）西家 孝 水田 真道 | |
| （事務局）大島 葉子 伊藤早智子 納谷 瑞穂 | 市川 悦子 八木久美子 |

編集後記

令和六年二月五日、林茂樹沼津牧水会理事長が逝去いたしました。突然の訃報に関係者一同、沼津牧水会の今後の運営を心配いたしました。

二月十六日に開催した理事会にて、私こと金子安夫が理事長に選出されました。浅学非才の若輩者ですが、沼津牧水会に関係して六十年の経験だけが誇りです。

沼津市若山牧水記念館が開館して三十七年になります。沼津牧水会は、沼津市若山牧水記念館の管理運営をおし、教育文化の振興に寄与するのみならず、地域社会活性化の役割を果たしていると思っております。

巻頭に、林茂樹理事長への弔文を榎本篁子館長、田原大三東京牧水会会長に寄せていただきました。また、四分の三世紀にわたって友情を育んできた浅井治理事の弔辞も併せて掲載いたしました。

昨年七月一日に、沼津市は市制百周年を迎えました。本会も記念事業として七月に『牧水・鳥』の発行、九月に記念企画展の開催、十一月に伊藤一彦先生をお迎えしての講演会を開催し、大勢の方から好評を得ました。伊藤先生には、玉稿をお寄せいただきました。

「沼津牧水祭・短歌大会」には奥田亡羊先生を、「雛の歌会」には阿木津英先生をお迎えし、それぞれ充実した歌会となりました。「沼津牧水祭 碑前祭・芝酒盛」は、雨天のため、会場を沼津市若山牧水記念館に変更しての開催でしたが、多くの方々が集い、盛会裡に催すことができました。「短歌講座」短歌会「書道講座」も好評でした。

林理事長のような高い見地からの運営には、とても及びませんが、関係各位の変わらぬお力添え、ご支援をいただき、全力で運営してまいります。よろしくお願ひ申し上げます。

紙面を借りての就任のご挨拶といたします。
本年度も変わらぬご支援をお願い申し上げます。